

2026 年度

文学部 総合型選抜Ⅱ期

(自己推薦型)

**【小論文】**

※同日に実施した学校推薦型選抜と共通問題

60 分 100 点

小論文問題(100点)

次に引用するのは吉岡洋の『AIを美学する』(平凡社新書、二〇二五年)の一節である。「必要性」や「有用性」に加え、あるいはそれ以上に、「面白さ」が社会や個人々人を動かしてきたことについて、次のように語られている。

すべてのテクノロジーは、たしかに何らかの必要性から生み出されたということができる。とりわけ、そのテクノロジーに投資することを正当化するためには、必要性や有用性に訴える説明が求められる。だが考えてみると「それがあると役に立つから汽車を発明した」というのはたんに後付けの説明ではないか。それが初めて作り出される現場では、たとえば蒸気力で車輪を回して走る機械があつたら面白いんじゃないか、という遊びの側面もたしかにあつたのである。あつたどころか、そうした関心が蒸気機関の開発をもっとも強く牽引してきたとすら言えるのではないか。人は必要性や有用性だけから何か新しいものを作り出したりしない。面白いから作るのである。

引用した文章を参考にして、あなたが「必要だから」や「役に立つから」ではなく、「面白いから」やってみたことと、そこから得られたものについて、六〇〇字以内で具体的に述べなさい。